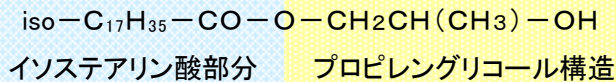


香粧品用エモリエント剤

イソステアリンサンPG

「イソステアリンサンPG」は、イソステアリン酸にわずかに親水性を与えるプロピレングリコール構造を持たせることにより得られたエモリエント剤です。



表示名称 : イソステアリン酸PG

INCI : PROPYLENE GLYCOL ISOSTEARATE

シャンプー

すすぎ時の感触を良くし、
洗い上がりの髪に滑りと、
艶を与えます。

クレンジング

- ・他の原料との相溶性を高めます。
- ・クレンジング力も上がります。
- ・クレンジング時の滑りをよくします。

特徴

- ・かるい感触の油性原料です。
- ・植物油、鉱物油など油性原料との相溶性に優れています。
- ・サンスクリーン剤、リキッドファンデーションの感触改良に適しています。
- ・植物由来のイソステアリン酸を使用しています。

サンスクリーン剤

処方系のシリコーンの一部と置き換えることにより、サンスクリーン剤特有の「べとつき」を低減し、酸化チタン、酸化亜鉛など粉体原料の感触も出ません。

コンディショナー

洗い上がりの髪の滑りを良くし、
コシを与えます。

一般性状

外観	透明液体～微黄色液体
酸価	6 以下
乾燥減量	2.0%以下
強熱残分	1.0%以下
けん化価	150～170
成分コード	550650
荷姿	16kg(缶入)

溶解性

精製水	×
1,3-ブチレングリコール	△
エチルヘキサン酸セチル	◎
トリ(カプリル酸/カプリン酸)グリセリル	◎
トリイソステアリン酸 PEG-20 グリセリル	◎
流動パラフィン	◎
コハク酸ジエトキシエチル	◎
シクロメチコン	◎
ジメチコン	×

化粧品原料間の相溶性改善効果

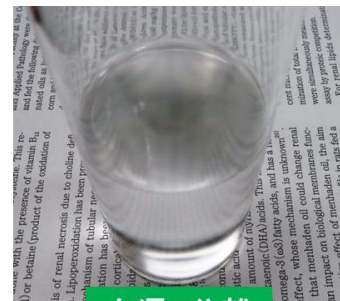
イソステアリンサン PG は、油性原料との相溶性が非常に良いため、互いに混ざり合わない化粧品原料をつなぎ合わせる働きがあります。

評価処方 オイルクレンジング

表示名称	配合原料	wt%	wt%
A相			
1 ミネラルオイル	流動パラフィン 70-S	58.7	56.7
2 イソステアリン酸PEG-8グリセリル	ブラウノン RGL-8MISE	20.0	20.0
3 パルミチン酸エチルヘキシル	エキセパールEH-P	12.0	12.0
4 ホホバ油	ホホパール(精製ホホバオイル)	5.0	5.0
5 イソステアリン酸PG	イソステアリンサンPG	0	2.0
6 フェノキシエタノール	カフレクト PE-1	0.3	0.3
B相			
7 DPG	DPG	2.5	2.5
8 水		1.5	1.5
total		100.0	100.0

<調合手順>

- (1) 1～6を室温で溶解する(A相)
- (2) 7, 8を室温で溶解する(B相)
- (3) A相を攪拌しながらB相を加える



白濁 分離

イソステアリンサンPG配合



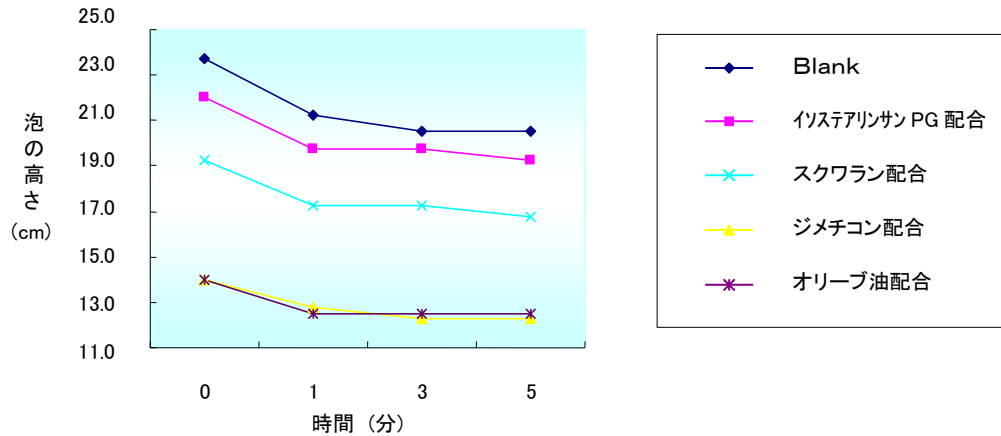
透明 均一

泡立ちに対する影響

イソステアリンサンPGは、シャンプーの泡立ちに比較的影響を与えずに、洗い上がりの髪に艶を与え、滑らかにします。

実験: サルフェート系、ベタイン系配合シャンプーに各改質剤 2.0% 添加し、泡立ちを測定。

起 泡 力



シャンプー処方濃度: 0.5wt% 実験温度: 25°C 実験方法: ロスマイルス法

サンプル: 処方例中のイソステアリンサンPG部分を各改質剤と精製水(Blank)に変更し比較

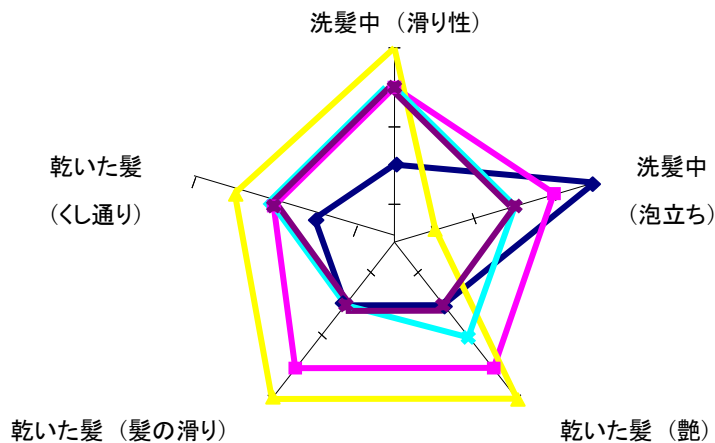
各改質剤: イソステアリンサンPG、ジメチコン、スクワラン、オリーブ油

処方シャンプーの配合成分

(C12, 13)パレス-3硫酸TEA、ラウラミドプロピルベタイン、グリセリン、ココミドDEA、改質剤、ポリソルベート80、ポリクオタニウム-10、フェノキシエタノール、香料、水

パネラーによる官能テスト結果

上記シャンプーに各改質剤 2.0% 添加し、パネラーによる官能テスト実施。



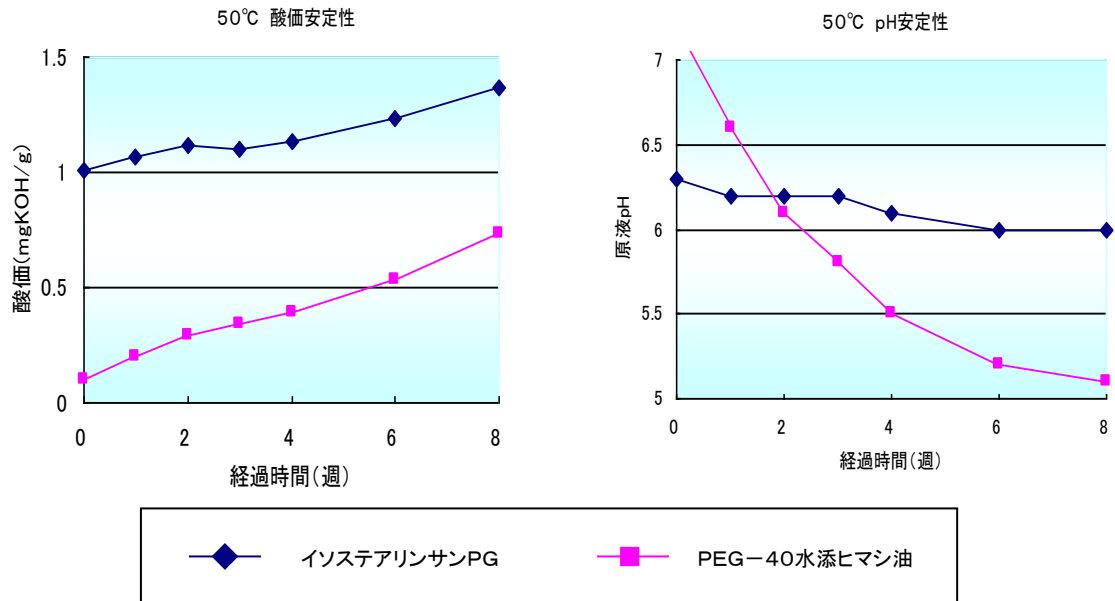
高温下での加水分解安定性

イソステアリンサン PG は、水系に配合しても、温度による影響を受けず、安定性に優れます。

実験： 調合溶液を作成し、50℃、40℃に長期間静置し、経過時間ごとに酸価とpHを測定。

調合溶液：[サンプル(イソステアリンサン PG など):乳化剤(ラウレスー3, -9):溶剤:水=3:3:1:3]

30%水溶液 50℃二ヶ月安定性



イソステアリンサン PG 30%水溶液 40℃二ヶ月安定性

